

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	日本学士院会員年金の支給等に必要な経費			担当部局庁	日本学士院		作成責任者	
事業開始年度	昭和31年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	振興企画課		振興企画課長 坂下 鈴鹿	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	日本学士院法第8条、第9条			関係する 計画、通知等	-			
政策	8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	その他の事項経費			
施策	8-2 基礎研究・学術研究の振興							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-04.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	日本学士院は、学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関として、学術の発達に寄与するため必要な事業を行うことを目的とする(日本学士院法第1条)。							
現状・課題 (5行程度以内)	日本学士院は、学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関として、学術の発達に寄与するため必要な事業を行うことを目的としており、日本学士院会員に対する年金の支給のほか、論文、著書その他の研究業績への授賞、学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行などを行っている。 授賞に値する優れた研究業績の発掘や学術上の論文の紀要への掲載等を一層促進していく必要がある。							
事業概要 (5行程度以内)	(日本学士院法第8条関係) ・学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞を授賞する。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。 ・学術の研究を奨励するため必要な事業で、日本学士院が行うことを適当とするものを行う。 (日本学士院法第9条関係) ・日本学士院会員に対して年金を支給する。							
事業概要URL	https://www.japan-acad.go.jp/							
実施方法	直接実施							
補助率等	-							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	437.7	436.7	440.9	441.7	444.3	
		補正予算(B)	▲34.8	▲30.2	▲37.9	▲41.5		
		令和5年度第1次補正予算				▲41.5		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	402.9	406.5	403	400.2	444.3		
	執行額(G)		367.6	371.2	373.9			
	執行率(%) =(G)/(F)		91%	91%	93%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		91%	91%	93%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		日本学士院		※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。			
		(目)	日本学士院会員年金	375.7				375.7
		(目)	日本学士院会員等旅費	25.3				25.3
		(目)	庁費	19.1				21.7
		(目)	日本学士院賞金	9				9
		(目)	外国招へい旅費	4.9				4.9
			その他	7.7				7.7
	計(A)		441.7	444.3				

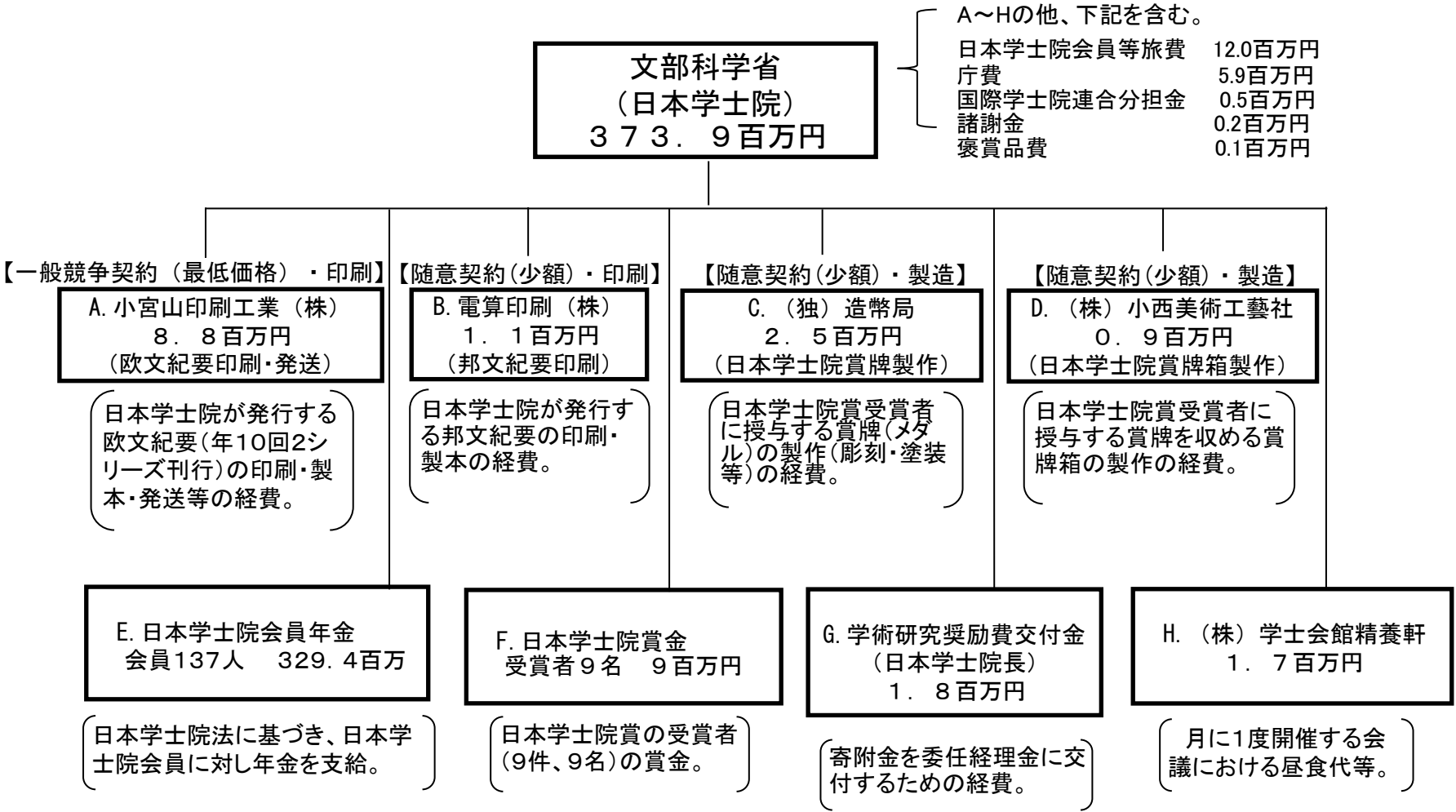
活動内容① (アクティビティ)		学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞並びに日本学士院エジンバラ公賞を授賞する。 ※日本学士院エジンバラ公賞の授賞は、エジンバラ公の御逝去に伴い、令和4年度まで。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		恩賜賞、日本学士院賞及び日本学士院エジンバラ公賞への賞金、賞牌等の授与	恩賜賞、日本学士院賞及び日本学士院エジンバラ公賞の授賞件数	活動実績	件	10	10	11	9	-
				当初見込み	件	12	11	12	11	11
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞を授賞することを長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞を授賞する。	-	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、定量的なアウトカムを設定することは困難である。								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、アウトカムを複数設定することは困難であるが、事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和2～令和4年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。								

活動内容② (アクティビティ)		学術上功績顕著な科学者を優遇するための機関として、学術の発達に寄与するため必要な事業を行うことを目的とし、日本学士院会員を選定する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		学術上功績顕著な科学者の優遇及び学術の発達に寄与するため、日本学士院会員の定員の充足を図る。	日本学士院会員数(3月末時点)	活動実績	件	139	132	131	-	-
				当初見込み	件	150	150	150	150	150
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	学術上功績顕著な科学者を優遇及び学術の発達に寄与するため、日本学士院会員の充足を図ることを長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		学術上功績顕著な科学者を優遇及び学術の発達に寄与するため、日本学士院会員の充足を図る。	-	成果実績	-	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、定量的なアウトカムを設定することは困難である。								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、アウトカムを複数設定することは困難であるが、事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和2～令和4年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。								

活動内容③ (アクティビティ)		日本学士院法第8条に定められた以下の事業を行うため、必要な会議を開催する。 ・学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞を授賞する。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。 ・学術の研究を奨励するため必要な事業で、日本学士院が行うことを適当とするものを行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		日本学士院に係る事業の充実のため、 必要な会議を開催する。	総会、分科会、委員会等開催 回数	活動実績	回	118	190	185	-	-
				当初見込み	回	150	150	150	150	150
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、直接的な成果目標の設定は困難であるため、事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標としているところである。 日本学士院に係る事業である『日本学士院欧文紀要』充実のため、必要な会議を開催することは、『日本学士院欧文紀要』への掲載論文及びアクセス件数が増加すると考えられ、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行へとつながるため、短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数について、過去5か年の平均値以上を成果目標とする。	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数／掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	成果実績	件	3,211.8	3,769	4,258.8	-	
				目標値	件	1,981.1	2,232.8	1,856.2	2,101.1	
				達成度	%	162.1	168.8	229.4	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-								
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	我が国碩学の府たる日本学士院が刊行し、我が国有数のインパクトファクター値を誇る『日本学士院欧文紀要』を通じて、我が国学術による新知見の報告や重要な論著の紹介などを広く国内外に対して行うことは、我が国学術の発達に寄与し、恩賜賞及び日本学士院賞授賞に足る次なる優れた論文、著書の産生につながることから、長期アウトカムを設定した。								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		学術上特にすぐれた論文、著書その他の研究業績に対して、恩賜賞及び日本学士院賞を授賞する。また、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌『日本学士院欧文紀要』を発行する。	-	成果実績	-	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-	-
				達成度	%	-	-	-	-	-
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		本事業は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的とするものであり、定量的なアウトカムを設定することは困難である								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、アウトカムを複数設定することは困難であるが、事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目標とし、令和2～令和4年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。								

活動内容④ (アクティビティ)		日本学士院法第8条第2号に定められた以下の事業を行う。 ・会員が提出し、又は紹介した学術上の論文を発表するための紀要の編集及び発行を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		「日本学士院紀要」、「Proceedings of the Japan Academy」への論文掲載	日本学士院紀要掲載論文数 (邦文、欧文)	活動実績	件	54	55	47	-	-
				当初見込み	件	80	80	59	52	52
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	日本学士院に係る事業の充実のため、論文掲載することにより『日本学士院欧文紀要』へのアクセス件数が増加すると考えられ、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行へとつながるため、長期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 5 年度	
		総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数について、過去5か年の平均値以上を成果目標とする。	総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」において公開する『日本学士院欧文紀要』への掲載論文一本当たりのアクセス件数(紀要アクセス件数／掲載論文総数)※特異値となるノーベル賞受賞者論文掲載時の紀要アクセス件数を除く。	成果実績	件	3,211.8	3,769	4,258.8	-	
				目標値	件	1,981.1	2,232.8	1,856.2	2,101.1	
				達成度	%	162.1	168.8	229.4	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		-								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								
		本事業は学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発展に寄与することを目的としていることから、アウトカムを複数設定することは困難であるが、事業の目的達成に資する取組を、毎年度着実に推進することを目指し、令和2～令和4年度においても、学術研究を奨励する我が国最高峰の賞の授賞や、我が国有数の高いインパクトファクター値を示す学術誌の発行、国際学士院連合(UAI)(69か国90機関加盟)への我が国学術団体代表としての参画などを着実に推進している。								

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。



資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金 額が支出されている者に ついて記載する。費目と 使途の双方で実情が分 かるように記載)	A.			B.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	庁費	欧文紀要の印刷・発送等	8.8	庁費	邦文紀要の印刷	1.1
	計		8.8	計		1.1
	C.			D.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	褒賞品費	日本学士院賞賞牌制作	2.5	褒賞品費	日本学士院賞賞牌箱制作	0.9
	計		2.5	計		0.9
	E.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	日本学士院会員年金	功績顕著な科学者である日本学士院会員(院長)に支給する年金	2.8	日本学工院員金	日本学士院賞受賞者に授与する賞金	1
	計		2.8	計		1
	G.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	学術研究奨励費交付金	寄附金を委任経理金に交付するための経費	1.8	庁費	会議の昼食代等	1.7
	計		1.8	計		1.7
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載					チェック	

支出先上位10者リスト

A.								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	小宮山印刷工業株式会社	8011101007165	欧文紀要印刷・発送	8.8	一般競争契約 (最低価格)	1	100%	－
B								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	電算印刷株式会社	2100001013633	邦文紀要の印刷	1.1	随意契約 (少額)	－	－	－
C								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	独立行政法人造幣局	6120005008509	日本学士院賞受賞者に授与する 賞牌(メダル)の製作の経費	2.5	随意契約 (少額)	－	－	－
D								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社小西美術工藝社	3010401010321	日本学士院賞受賞者に授与する 賞牌を納める賞牌箱製作の経費	0.9	随意契約 (少額)	－	－	－
E								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	院長	－	功績顕著な科学者である日本学 士院会員(院長)に支給する年金	2.8	その他	－	－	－
2	会員A	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.7	その他	－	－	－
3	幹事	－	功績顕著な科学者である日本学 士院会員(幹事)に支給する年金	2.6	その他	－	－	－
4	部長A	－	功績顕著な科学者である日本学 士院会員(第1部長)に支給する年金	2.6	その他	－	－	－
5	部長B	－	功績顕著な科学者である日本学 士院会員(第2部長)に支給する年金	2.5	その他	－	－	－
6	会員B	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.5	その他	－	－	－
7	会員C	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.5	その他	－	－	－
8	会員D	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.5	その他	－	－	－
9	会員E	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.5	その他	－	－	－
10	会員F	－	功績顕著な科学者である日本 学士院会員に支給する年金	2.5	その他	－	－	－

F

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	受賞者A	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
2	受賞者B	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
3	受賞者C	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
4	受賞者D	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
5	受賞者E	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
6	受賞者F	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
7	受賞者G	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
8	受賞者H	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-
9	受賞者I	-	日本学士院賞の受賞者の賞金	1	その他	-	-	-

G

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	日本学士院長	-	寄附金を委任経理金に交付 するための経費	1.8	その他	-	-	-

H

	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社学士會館精養軒	2010001001746	会議の昼食代等	1.7	随意契約 (少額)	-	-	-